



ひがし野

教育目標
 真理(まこと)を求める生徒
 情操(こころ)を深める生徒
 身体(からだ)を鍛える生徒



高め合い 磨き合い 感動し合い
 「愛」いっぱいの真岡東中

受検は団体戦 ～目標達成に向けた総力戦～

3月3日が茨城県立高校入試、3月7日が栃木県立高校入試です。3年生の保護者の皆様にとりましては、不安な日々をお過ごしのこととお察しいたします。勉強するのは生徒たちですから、親はなにもしてあげることができません。ただただ「見守るのみ」なのではないでしょうか。

「受検は団体戦」と言われます。この団体戦とは、集団で受検することではありません。学級・学年・学校全体で学習に向かう雰囲気を作れたかどうかで、団体戦のように受検の結果にも影響を及ぼすという意味です。全体の雰囲気が学習に向かっていれば、自ずと勉強をしなければならないような気持ちになります。反対に、受検とはほど遠い、浮かれた雰囲気であれば、勉強をしなくても違和感を感じにくくなります。

真岡東中の3年生全員に、「15の春」を笑顔で迎えて欲しいと願います。だからこそ、学校全体で目標達成に向けた総力戦として、学習に向かう雰囲気作りに努めていきたいと思えます。



モニングスタディ

(タブレットを活用した朝の学習の様子)

『目的』と『目標』 ～学校教育が目指すものを確認する～

「目的を持って行動しなさい。」「目標を決めて取り組みなさい。」というような言葉かけを、普段何気なくされている方は少なくないことと思います。「目的」と「目標」の違いとは何なのでしょう。

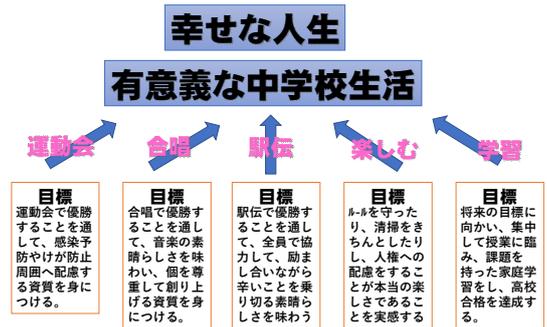
これは、二学期の始業式で生徒たちに話した内容です。二学期は、運動会・ひがし野祭・駅伝フェスティバルの三大大事と言われる行事がありました。

右の図のように、それぞれの行事や活動には、「目標」があります。もちろん、その目標の達成を目指して取り組むこととなります。しかし、「目標」は、上位にある「目的」を達成するためのプロセスです。言うなれば、「目的」はゴールです。始業式では、それぞれの行事の目標を達成するとき、常に「誰もが有意義な中学校生活を送れる」、さらには「幸せな人生を歩める」という「目的」を念頭に置いて取り組んでほしいとお願いしました。

学校も、「目的」を常に確認しながら教育活動をしなければなりません。教育基本法第一条には、「教育は人格の完成を目指し、…」と書かれています。広義な表現ですが、狭義では、「生きる力を養う」ことであろうと思えます。

3月9日には、最大の学校行事である「卒業式」が行われます。卒業式の準備は、主に2年生が行いますが、本校では、教師が指示することなく、生徒が主体的に取り組むよう計画を進めております。これは、卒業式を成功させるという目標に加えて、生徒たちが主体的に判断して行動できる資質を養うという目的に向かったものです。

2年生は、卒業式会場見取り図を理解し、立派な会場を作り上げ、主体的に判断して行動する能力を身に付けてくれると信じています。



コミュニティ・スクール ～令和4年度からの新たな取組～

本校では、昨年度から「地域とともにある学校づくり」を推進しております。具体的には、学校支援ボランティアを導入し、様々な場面で、保護者の方々を中心としたボランティア活動にご協力頂いております。その効果は、様々な場面で確認できております。例えば、朝の読み聞かせは、今や東中の生徒にとって「あたりまえ」の活動になっており、生徒たちは、地域の方の読み聞かせをとっても楽しみにしております。

これらを受け、来年度より、真岡市教育委員会の指定を受け、「コミュニティスクール」の取組をスタートすることになりました。詳細については、3月15日の保護者会において説明させていただきますが、簡単に言えば、学校全体の運営を、保護者や地域の方々と一緒に力を合わせて進めていきたいと思います。これまで、「学校評議員」5名の方と、年2回の会議を持ち、学校運営について意見交換をしてきました。これに代わるものとして「学校運営協議会」を立ち上げ、より多くの人数で学校運営について協議することになります。

これまで以上に、保護者の皆様にも学校教育活動にご協力いただき、共に力を合わせて子どもたちの成長を見守ってまいりますので、ご理解とご協力の程、よろしくお願いいたします。